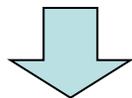


千葉市中心市街地活性化基本計画 (計画期間 19年8月～23年3月)

【中心市街地を巡る状況】

- 近年、大規模小売店舗の相次ぐ撤退により、商業機能が衰退(H10からH15に6店舗が閉店)。
- 人口・世帯数は増加傾向であるが、ファミリー世帯が減少するなど、まちの魅力が低下。
- 休日のにぎわいが失われている。

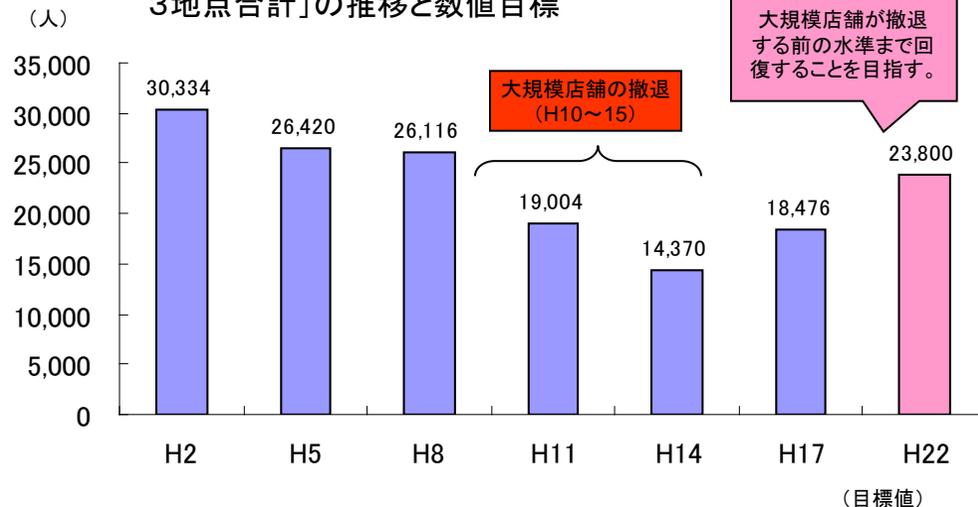


- 小売販売額の減少
(H9: 2,588億円 → H16: 2,030億円(▲21.6%))
- ファミリー世帯の減少
(H12: 3,951人 → H17: 3,658人(▲7.4%))
- 歩行者通行量(休日)の減少
(H8: 26,116人 → H17: 18,476人(▲29.3%))

【目標】

目標	指標	現況値	目標値(H22年)
経済活力に満ちたまち	年間小売販売額	2,004億円 (H18推計)	2,005億円 (0.05%増)
文化が薫り都心の魅力があふれるまち	文化施設・都市福利施設等の合計の年間利用者数	16万人 (H17)	89万人 (新たに整備する施設を含む)
多彩な交流と出会いを育む賑わいのあるまち	歩行者通行量(休日)[主要な回遊動線上の3地点合計]	18,476人 (H17)	23,800人 (29%増)

中心市街地の歩行者通行量(休日)[主要な回遊動線上の3地点合計]の推移と数値目標



あらゆる世代のニーズに対応した複合再開発施設を整備するとともに、中央公園と4つのメインストリート(まちなかプロムナード)において、イベント等を積極的に展開することなどにより、特にファミリー世帯が楽しく過ごせる魅力的な空間を実現する。

千葉市中心市街地活性化基本計画の事業概要

中央公園と4つのメインストリート活性化

※中央公園及びこれを中心とする「中央公園プロムナード(千葉駅前大通り)」、「ハミングロード(栄町商店街)」、「千葉銀座商店街」、「中央銀座商店街」の4つの通り。

○まちなかプロムナード(※)において、各種イベント等を積極的に展開することにより、ファミリー世帯が楽しく過ごせる魅力的な空間を創出する。

(まちなかプロムナード活性化事業)



みどりとの花の催し



千葉都心イルミネーション



大道芸フェスティバル



オープンカフェ事業



親子三代夏祭り



アートセンター「Wi-CANP」
(学生による空店舗活用)

人が集まる拠点の形成

○商業ビル跡地に、科学館、プラネタリウム、子ども交流館、子育て支援館、ビジネス支援センター、保健福祉センター、商業施設等が一体的となった、**子供を含めたあらゆる世代のニーズに対応した複合施設を整備し、にぎわいの再生を図る。**(H19年秋オープン予定)

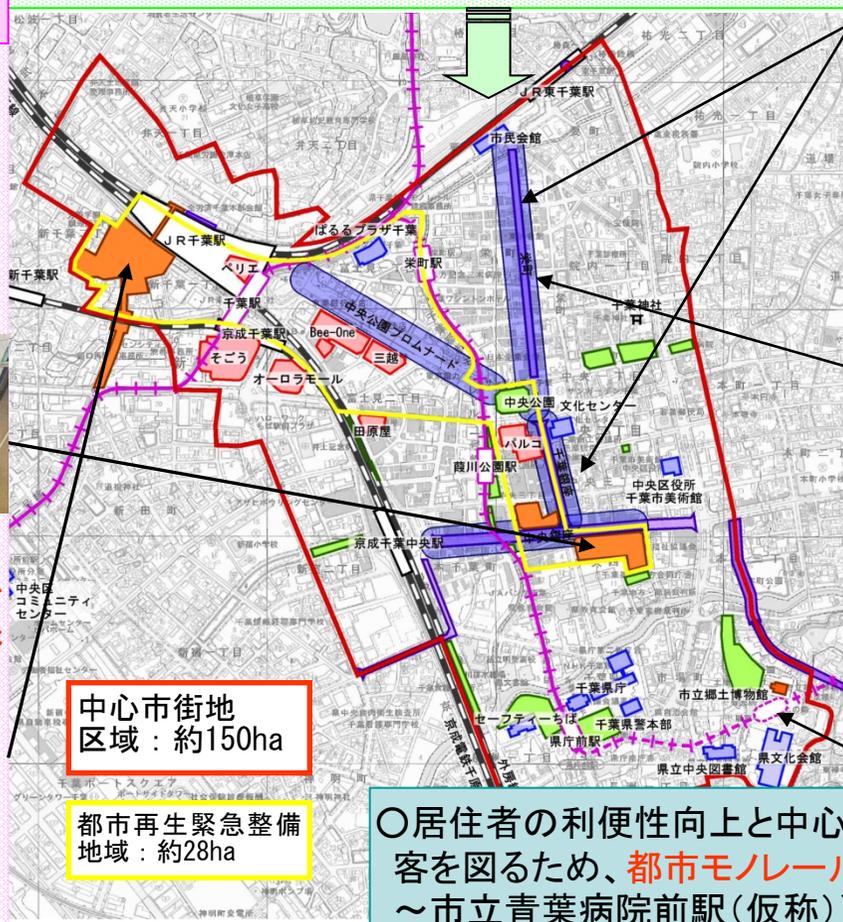


千葉中央第六地区市街地再開発事業

○商業・業務・ホテル等機能の集積を図るとともに、歩行者の回遊性を確保し、**にぎわいの再生を図る。**(H22年オープン予定)



千葉駅西口地区市街地再開発事業



商店街の活性化

○空き店舗を活用した親子のための料理教室、**小・中学校と商店街の連携**による子供の職場体験等の実施、**共通駐車券発行**による利便性向上により、ファミリー世帯も含めた居住者・来街者にとって身近で利用しやすい商店街にする。

安心・安全なまちづくり

○地域、商店街、大型店、警察等が連携して**夜間パトロール**を実施し、ファミリー世帯も安心・安全に過ごせるまちにする。



セーフティガード事業

公共交通基盤の整備

○居住者の利便性向上と中心市街地への更なる集客を図るため、**都市モノレールを延伸。**(県庁前駅～市立青葉病院前駅(仮称))



都市モノレール整備事業